

氏名： 棚橋 訓
所属： 人間文化創成科学研究科人間科学系
職名： 教授
学位： 文学修士 / M.A. in History
博士 (社会人類学) / Ph.D. in Social Anthropology
専門分野： 文化人類学 / Socio-Cultural Anthropology
E-mail： tanahashi.satoshi@ocha.ac.jp

◆研究キーワード / Keywords

文化人類学 / 歴史人類学 / オセアニア地域研究 / ジェンダー・セクシュアリティ研究 / 文化景観論
Cultural Anthropology / Historical Anthropology / Oceanic Studies / Gender and Sexuality Studies
/ Cultural Landscape Studies

◆主要業績

総数 (8) 件

- ・「聖恩の景観史? マーシャル諸島にみる軍政期南洋群島統治の一断面」, 日本オセアニア学会 (編) 『オセアニア学』, 京都: 京都大学学術出版会, pp.334-344.
- ・「地図と権力? マーシャル諸島ローラ島の地図作製をめぐる権力作用の一考察」, 塩田光喜 (編) 『知の大洋へ、大洋の知へ? 太平洋島嶼諸国の近代と知的ビッグバン』, 東京: 彩流社, pp.167-202.
- ・「植民地主義との邂逅」, 片山一道・熊谷圭知 (編) 『朝倉世界地理講座? 大地と人間の物語? 第 15 巻オセアニア』, 東京: 朝倉書店, pp.132-146.
- ・『NHK 世界遺産 100 No.17 聖なる自然? ウルル、カタ・ジュタ国立公園』 (監修・指導), 東京: 小学館, 18p.+DVD
- ・「島の脆さ、島の強さ? オセアニアの環礁社会に思う」, 『オセアニア』, 日本オセアニア交流協会, No.81, pp.1-3.

◆研究内容 / Research Pursuits

2009 年度は科学研究費補助金の研究分担者として「サンゴ礁? 人間共生系の景観史」(新学術領域研究(研究領域提案型)の 1 件、同連携研究者として「トランスナショナリズムと「ストリート現象」の人類学的研究」(基盤(A) 海外)の 1 件、環境省地球環境研究総合推進費(全球システム変動分野)の研究分担者として「環礁上に成立する小島嶼国の地形変化と水資源変化に対する適応策に関する研究」の 1 件、計 3 件の資金を得て、ミクロネシアのマーシャル諸島、ポリネシアのツバル、八重山諸島石垣島に関する調査研究を実施した。また、東京外国語大学アジアアフリカ言語文化研究所、日本貿易振興機構アジア経済研究所、国立民族学博物館、成城大学民俗学研究所の各機関の共同研究員として 6 件の共同研究に携わり、1 件の国際シンポジウムを組織し、4 件の研究発表等を実施した。

During the academic year of 2009, I conducted researches on Marshall Islands, Tuvalu and Ishigaki of Yaeyama Islands with JSPS grants and a Japanese Ministry of Environment grant. Research topics under the grants were as follows: (1) Landscape History of Coral Reefs-Human Symbiosis, (2) Anthropological Studies on Transnationalism and Street-phenomena, and (3) Research on Sustainable Land and Water Resource Management in Atoll Island Countries. I was appointed as the affiliated/visiting researcher of the following institutions: Tokyo University of Foreign Studies ILCAA, JETRO IDC, National Museum of Ethnology, and Seijo University Institute of Folklore Studies. I also organized an international symposium on Tuvalu and environmental change for Japanese Society for Oceanic Studies.

◆教育内容 / Educational Pursuits

学部において「文化人類学(基礎講義)」「ジェンダーLA科目」「人間と発達」「教育科学研究指導?・?」「文化人類学概論」「民族誌学演習」等の授業を、大学院において「開発人類学」「開発人類学演習」「開発・ジェンダー論特論」「比較文化ジェンダー論」等の授業と研究論文指導を実施した。また、放送大学客員教授、東京大学・慶應義塾大学・聖心女子大学・和洋女子大学等の非常勤講師として文化人類学分野の教育と研究指導を実施した。

For the academic year of 2009, I gave the lectures, seminars, directed-reading courses for both undergraduate and graduate programs at Ochanomizu University. List of the courses I offered were as follows: Cultural Anthropology, Gender/Globalization/Locality, Introduction to Cultural Anthropology, Seminars on Ethnography, Introduction to Educational Sciences, Anthropology of Development, Special Studies on Anthropology of Development, Comparative Studies in Gender and Culture. As a visiting professor of the Open University of Japan, I was in charge of an introductory TV lecture series of cultural anthropology which has been on the air since April, 2007. I also gave undergraduate-level lecture series on different topics of cultural anthropology for the universities of Tokyo, Keio, Sacred Heart and Wayo.

◆研究計画

2007年度から、サンゴ礁学、自然地理学、地形学、考古学、形質人類学、海洋生態学、海洋工学、リモートセンシングの各分野の研究者との共同によるオセアニア環礁の地球温暖化適応策の総合的研究を開始した。2008年度から文部科学省科学研究費(新学術領域研究)「サンゴ礁学」にも参画して当該分野での次世代の育成にも取り組んでいる。今後は、文化人類学の立場から、オセアニア島嶼諸国や国内小島嶼域の環境変動対策と国土保全・景観分析の分野での実戦的な適応策をめぐる政策提言を視野に入れた、地球貢献型の研究を一層推進していく計画である。また、ジェンダー・セクシュアリティ研究においては、公衆衛生学、疫学、社会学の各専門分野の研究者たちとの連携を視野に入れた総合的な研究枠組の検討を行い、文化人類学の新たな実戦的貢献の可能性を切り拓きたいと考えている。

◆メッセージ

私は文化人類学の視点と方法から現代世界の様々な問題群を実証的に分析・理解して、その成果を現代社会に還元することを目指して研究を続けています。フィールドワーク(現地での実態調査)によって人間の多様性をこまやかに捉えつつ、その背後にある普遍的課題に目を向けていくのが文化人類学という分野の特徴です。文化人類学では「多様性に向き合う眼」と世界をつなぐ「外向と共生の思考」を核に、研究を進めていきます。多くの受験生のかたがたにとって、文化人類学は、あまり耳にしたことのない未知の分野だと思いますが、お茶大に入学の際には、是非ともこの未知の分野に積極的に分け入り、現代世界を見る新たな眼(芽)を手に入れて頂きたいと思います。